

情 報 公 開 文 書

研究の名称	肺癌診断における EBUS-TBNB の有用性と安全性に関する後方視的観察研究
研究機関の名称	富山県立中央病院
研究責任者	呼吸器内科 医長 津田岳志
研究の概要	<p>【研究対象者】 2019年10月から2021年12月の間に当院で気管支鏡検査を受けた患者さんのうちEBUS-TBNA(endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration)もしくはEBUS-TBNB(endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle biopsy)を受けた患者さんを対象とします。</p> <p>【研究の目的・意義】 気管支鏡検査は肺や縦隔に関わる病気の診断に頻繁に用いられます。その中でもEBUS-TBNAは挿入した気管支鏡から超音波を出してリアルタイムに病変を見ながら針を穿刺して病変の一部を採取する方法であり、安全で有効性の高い方法として確立されています。EBUS-TBNBはEBUS-TBNAに用いられる穿刺針を改良しより多くの組織の採取を目指す方法ですが、通常のEBUS-TBNAに対する有効性および安全性は十分に明らかになっていません。本研究では当院でEBUS-TBNAおよびEBUS-TBNBを行った患者さんの診療録データを集めることで、その診断率、合併症、遺伝子検査の成功率などを解析することを目的とします。</p> <p>【研究の方法】 富山県立中央病院で診療を受けた上記の対象患者さんの診療録情報を研究に用います。個人情報が入り込まないよう、氏名やカルテ番号などは研究に用いません。</p> <p>【研究期間】 上記の期間の患者さんを対象とし2022年3月までにデータの解析を行う予定です。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会や医学雑誌での発表を予定します。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	本研究では、年齢、性別、検査実施日、気管支鏡検査の診断、最終診断、組織所見、採取した病変部位、施行した術者、使用した穿刺針、穿刺回数、検査時間、合併症、遺伝子変異検査の種類と結果、CTもしくはPET/CT検査所見などを研究に用います。これらの情報は富山県立中央病院内で解析されます。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>情報を利用する機関：富山県立中央病院</p> <p>施設責任者：呼吸器内科 医長 津田岳志</p>
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者	富山県立中央病院 呼吸器内科 医長 津田岳志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-424-1531(代表)</p> <p>E-mail ttsuda-tym@umin.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 呼吸器内科 医長 津田岳志</p>